

SSI学生のつどい: Co-Leading Next Society 「未来を構想する方法を学ぼう」 2019.6.5 Wed. 14:45-18:15



よりよい社会を目指す仲間が、ここにいます

貧困、差別、環境問題、エネルギー危機… 私たちの住む地球社会はいま、多くの課題を抱えています。さまざまな問題が複雑に絡み合い、抑圧を受けながら生活する人も少なくありません。一方、これらの課題を解決するために各地で懸命に活動している人びともいます。私たちは、困難の中にある人びとの苦しみ、諸課題を解決しようとしている人びとの情熱に共感しつつ、ありたい未来を前向きに構想し、自分に何ができるかを考えなくてはなりません。このイベントでは、学生みなさんに、未来新聞®の手法を用いて未来を思い描いてもらい、描かれた未来に向かって今から何をなさなくてはならないかを話し合ってもらいます。異なる立場や意見を持つ人と対話することによって、互いに学び合うことができればと思います。

《参加対象者》

・原則として、大阪大学の学生、および学生団体

《主なプログラム》

- 14:45～18:15 第一部 (於:大阪大学会館 2階206 SSI豊中ラウンジ)
 14:45～15:00 社会ソリューションイニシアティブ (SSI) の理念と取組
 15:00～16:00 「未来新聞®を用いた未来VISION創造と、バックキャスト
 ～ よき世を創ることは、どんなことより面白い～」 未来新聞 森内真也氏
 16:00～16:45 何人かの学生によるプレゼンテーション
 — 自分が行っている社会課題解決に向けた活動について
 16:45～18:00 参加者全員によるフューチャー・デザイン (グループワーク)
 18:00～18:15 全体での意見交換
 ※プログラム内のスケジュールは状況により変動することがあります
 18:15～ 第二部 (於:大阪大学会館 2階206 SSI豊中ラウンジ)
 ○交流会 (お時間のある方は、ご参加ください)

主催: 大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ (SSI)

協力: 未来新聞株式会社

申込みサイト: (要事前申込み)

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/94ce7281622002>

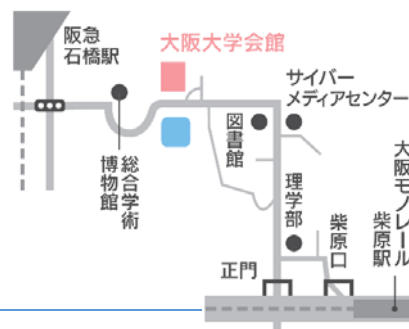


講演者 森内真也氏 略歴

大阪府豊中市生まれ。未来新聞株式会社代表取締役。旧司法試験合格後司法修習修了。
 「クリエイティブ」「未来新聞®」といった研修・ワークショップをLIXIL、富士ゼロックス、ディスコ、国際協力機構 (JICA)、岩手県遠野市第三セクターといった企業・非営利組織、東工大、東京理科大学、青山学院大学、東洋大学、専修大学といった教育機関に提供。日経産業新聞、東京新聞他に記事掲載。

未来新聞®とは？

未来のアイデアを新聞記事 (すでに起こったこと) の形にすることによって未来をデザインする方法です。一見簡単そうに見えますが、実際にやってみると、そうでもありません。未来を具体的に描くことの楽しさと難しさの両方を経験することができるでしょう。



大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI) とは？

大阪大学は、日本や世界が直面する様々な社会課題に対して解決方法を提示し、さらに学問的にも真理を追究するためのシンクタンクとして、2018年に「社会ソリューションイニシアティブ (SSI)」を始動させました。SSIは「命を大切に、一人一人が輝く社会」の実現に向けて、心あるみなさまとともに、場をつくり、プロジェクトを推進するとともに、未来社会を構想してまいります。

■ 問い合わせ先 | 社会ソリューションイニシアティブ (SSI) E-mail: ssi@ml.office.osaka-u.ac.jp

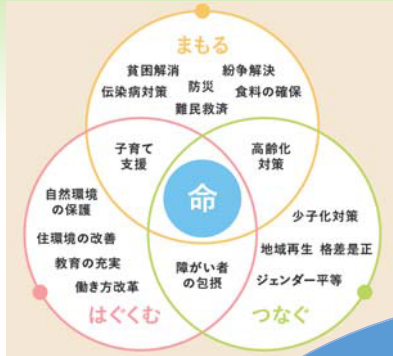


大阪大学 社会ソリューションイニシアティブのご紹介 30年後の社会を私たちと創りませんか？

社会ソリューション イニシアティブ (SSI) とは

SSIは持続可能な共生社会を目指して
社会課題に取り組むシンクタンクです。

SSIの3つの視点： 命を「まもり」、「はぐくむ」、「つなぐ」
SSIは、持続可能な共生社会を、「命を大切にし、一人一人が輝く社会」
として捉え、命を「まもり」、「はぐくむ」、「つなぐ」という視点から、
社会課題に取り組みます。



命を大切にし、
一人一人が輝く社会を目指して



SSI長 堂目卓生

人類は命をまもり、はぐくみ、つなぐために文明を発展させ、
富の種類と量を増大させてきました。しかし、富の増大は人口の
増大を伴って、地球温暖化や環境破壊、天然資源の枯渇、
食糧不足など、地球規模の問題を引き起こし、
命が脅威にさらされるという皮肉な事態を生み出しています。
人類は文明の原点に立ち返って、命を大切にし、
一人ひとりが輝く社会を構築しなくてはなりません。
今こそ、30年後、50年後を見据え、持続可能な共生社会を
目指して学問の知と現場の知を合わせ、人類が直面する
諸課題に皆で取り組んでいく必要があります。
こうしたSSIの問題意識に賛同して下さる方の
活動への参加やご支援を
お待ちしております。

SSIは、大阪大学の
人文社会科学系研究科・研究所が
中心となり、理工系・医歯薬系など
自然科学系の研究者と連携を図りながら、
さらには、パブリックセクターや民間企業など
さまざまな社会のステークホルダーと協働しながら、
社会課題の発見と解決を進めるほか、未来社会を担う
人材の育成も視野に入れています。

大きく変わっている、 2050年の世界や日本

世界では人口増加／日本では人口減少

高齢化
食料不足
天然資源の枯渇
温暖化の影響拡大
人や富が都市に集中／地方の衰退
人工知能(AI)の進化
再生医療技術の発展
更なるグローバル化

未来社会のために
私たちにできることは—



シンボルマーク に込めた思い



人間や命、そして地球を意味する
青い丸(「i」の「頭」の部分)を、
めばえやぬくもりなどを思い起こ
させる色合いの2つの小さな「s」が
まもり、はぐくみ、つないでいます。
全体としてSSIの頭文字「S」を構成
するこのロゴには、命によって命を
まもり、はぐくみ、つなぎながら、
未来社会のあるべきすがたを
構想していこうという、
SSIの思いが込め
られています。



SSIサロン

様々な立場の人たちがともに
議論することで、解決すべき
社会課題の共有や整理を行う
SSIサロンを開催しています。

第1回「生と死と、命と 超高齢社会の多様性」
(2018年6月)

第2回「科学技術と地域資源のコラボレーション」
(2018年7月)

第3回「紛争解決は何をめざすのか」(2018年9月)

第4回「科学技術と人間」(2018年11月)

第5回「SDGsとどう向き合うか
30年後の社会を見据えて」(2019年1月)

基幹プロジェクト



地域資源と
ITによる
減災・見守り
システムの
構築



共生対話の
構築
(紛争解決
に向けた
対話の支
援)



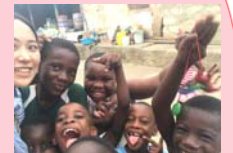
SDGs指標の改善を通じた
環境サステナビリティの
促進

協プロジェクト

健康・
医療の
行動経済
学的研究



アフリカの非
正規市街地
をフィールド
とした持続型
都市社会モ
デルの構築



地域住民の死生観と
健康自律を支える超高
齢社会創生のための
文理融合プロジェクト

